

# 図書館だより

## CONTENTS

“大学図書館と私”	1 “病院図書室と患者図書室をご紹介します”	4
学生エッセイ 図書館活用法	2 4月から図書館長が交替しました ほか	5
書評 藤原咲子「父への恋文」	3 寄贈図書案内 / 人事往来	6

## 大学図書館と私

地域看護学 准教授 高林 知佳子

長い間、県の保健師として働いてきた私が教員になり、1年3か月が過ぎました。保健師とは何をする人か？、この仕事の魅力は何なのか？を学生に伝えようと思いつきながら、毎回の授業に臨んでいます。授業が終わった後は、学生が書いてくれた振り返りシートを読みながら、伝え方の難しさを感じつつ、次はどう工夫しよう？と考えています。

そんな中、今年も若葉の緑が眩しい5月から6月にかけて、4年生の地域看護学実習が行われました。嬉しいことに、数名の学生がこの実習が終了した後、保健師になりたいと思ってくれたようです。やはり実際に地域に出て、指導くださる保健師さんの仕事を自分の目で見て、住民の方達と接することで、保健師として地域で働くことの魅力を知るのでしょ。かくいう私も医療技術短大3年生の保健所実習がきっかけで、保健師になりたいと思ったのでした。村の公民館で保健師さんが住民の方達に健康教育を行っている姿を見て、予防活動は大事だなと思ったことを今でも覚えています。

私は医療技術短大卒業後、専門学校で保健学科に進み、そして県の保健師になりました。母子保健から始まり、精神保健、結核・感染症対策、難病対策等の業務をいくつかの保健所を異動しながら担当しました。その中で、保健師は地域に出向き、必要な健康課題を見つけ、対策を考え、地域の様々な関係機関の方々と連携しながら健康づくりに取り組むというダイナミックな仕事ができるので、本当にいい職業だなとずっと思っていました。

その後、県が新しく建設する健康増進施設の準備室に異動し、完成後はそのまま健康増進施設に派遣となりました。そこには伝統医学センターという研究部門が併設されており、先生方や研究員の方達が昼夜熱心に運動・休養の研究をされていました。先生方に教えていただきながら自分も学会で発表したりしましたが、この頃は文献検索の意味すら知りませんでした。もっと勉強がしたいと思い、総合情報社会研究科人間科学専攻の博士前期課程に入学しました。

ここでの研究テーマは、当時の業務を通じ感じていた素朴な疑問(運動習慣獲得後、継続する人と中断する人

がいるのは何故か)でした。社会人としてもう一度学ぶことは、自分の専門領域に関する知識を得るだけでなく、専門職としての自分のあり方を考えるよい機会になりました。

その後、医学系研究科保健学専攻の博士後期課程に入学し、職場はずでに保健所に戻っていましたが、思い切って研究の方向を変え、担当していた不妊治療費助成事業を通し、ずっと感じていた疑問(公的助成事業の形態をとる助成や支援は不妊治療を受ける夫婦にとり重要なもの、満足のいくものと捉えられているのか)を研究で明らかにしようと決めました。

幾つもの文献検索データベースから、不妊治療を受ける夫婦への支援について様々な角度で捉えた国内外の文献を自宅にいながら検索し、自宅から複写依頼ができたのはありがたいことでした。また大学が購読している電子ジャーナルは、図書館で全文を読むことができたのも嬉しいことでした。何より図書館司書の方には文献を取り寄せていただいたり、ジャーナルそのものを調べる際にアドバイスをいただいたりして、随分お世話になりました。

大学の図書館が電子ジャーナルをはじめ電子情報資源へのアクセスを保証してくれているおかげで、多くの研究が国内外で行われていることを知ることができます。自分が教育研究をする立場になり、改めて大学の図書館とは学術研究活動全般を支えてくれる重要な学術情報基盤の役割を持ち、大学の教育研究にとって不可欠な中核になっていると感じます。

本学図書館の司書の方達もいつも親切に対応してください。お世話になりながら、これからも図書館を大いに利用したいと思います。

(たかばやし ちかこ)



## 連載 学生essay～図書館活用法～

## 私と図書館

3年 加藤 利奈

私が主に図書館を利用するときは疾患や薬剤などの調べものがあるときです。学年があがり3年生になってから、ほとんどの授業で事前学習が求められるようになりました。既に持っている教科書類で学習することも可能ですが、教科書では不十分な場合もありその部分を補う目的で専門書を探しに利用しています。

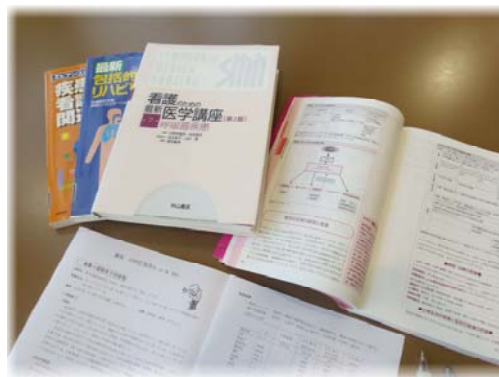
図書館では領域別や疾患別に多くの図書が並べられているので、幾つかの専門書を読み比べることができます。同じ疾患を調べるにしても、例えば、成人期と老年期ではそれぞれ注意するポイントなどが異なっているため、今自分が調べたいものに合った図書を見つけることができるのでとても便利です。

また、どのような看護を提供するか考えるうえでインターネットで調べた場合、調べたものが正しい情報ではない可能性があります。しかし、専門書で調べることにより根拠が明確になっている情報や出典が明らかになっているものを知ることができます。

そして、図書館には疾患や薬剤の専門書の他にも闘病記などの本も多数あり、疾患の病態や治療法に関することだけでなく実際にその疾患を体験された方の本を読むことができます。看護計画を立てるためには患者さんの気持ちや思いを理解することや個別性に配慮する必要もあるので、とても参考になります。

本を借りるためだけでなく、図書館内は静かなので、勉強をするために適した良い環境だと思います。レポートをまとめたり実習記録を書いたりなど、皆さんも是非大学の図書館を活用してみてください。

(かとう りな)



## 私と読書

2年 猪又 未実

私は本を読むのがあまり好きではなく、どちらかというとテレビをよく見ます。小中学校の時は朝読書や図書感想文の課題などで本を読むこともありましたが、高校に入ると全く本を読む機会がなくなりました。本を読まない理由として活字が苦手ということが挙げられます。活字が苦手なのでどうしても読書に対して消極的になり、それがさらに活字に対する苦手意識を増大させるという悪循環を生んでいました。また、図書館の利用法がよく分からず、図書館という場所がなんとなく苦手になってしまい本を借りに行かなかったことも理由の一つでした。

大学に入学してからも、図書館に行く機会があまりなく、一年時にはオリエンテーションの時に入ったのを含めても2、3回だけという状態でした。しかし、二年生になって転機が訪れました。それは課題として

出されるレポートです。本を一冊読んで、それに対してレポートを書くという課題が出たのですが、本を持っていなかったため図書館を利用しました。その時久しぶりに図書館に入って、今まで図書館に対して持っていたイメージが大きく変わりました。図書の検索機能がとても充実していて、本を容易に見つけることができました。また、図書館の方はとても親切で、本を借りる際の手続きも本当に簡単なので驚きました。そして何より、借りた本がとてもおもしろく、活字が苦手なため読むのは遅いですが想像以上に内容が頭に残ったので、読書に対する苦手意識がなくなり、むしろ読書の魅力に気づかされました。

それをきっかけに私は図書館を利用するようになり、今では空いた時間を見つけて本を読むようになりました。授業の合間などに読んでいて授業が始まったのに気づかなかったりするほど熱中してしまうこともあります。一つ残念なのは、あまり読書に割く時間がないということです。二年になって勉強が忙しくなる前にもっと本を読んでいればよかったなあと感じています。今は、自分の興味のある文庫本などを読んでいますが、今後は看護に関するものなども読んでみたいと思います。また、これからはテスト勉強や実習などで調べることも増えるので図書館を有効に活用していきたいです。今までの分も長期の休みを利用してたくさん本を読み、いろんな感情や思いに触れ、自分の考え方や知識を豊かにしていけたらと思っています。

(いのまた みのり)



## 『父への恋文 新田次郎の娘に生まれて』

藤原咲子, 山と溪谷社, 2001

成人看護学 講師 飯田 智恵

「読むことは築くこと, 書くことは創ること 新田次郎」

➤ れは、私が教員になりたての頃に、読書が好きな叔母が彼女の本棚から選び、贈ってくれた一冊、藤原咲子著「父への恋文 新田次郎の娘に生まれて」に登場するフレーズです。直木賞作家の新田次郎である「父」が、10歳の咲子さんのために藁半紙に書き、勉強机の前に貼ったといいます。この作品には、文章を書くことを教え、自分をチャキと呼び、慈しみ育ててくれた父と過ごした日々が綴られています。

咲子さん一家は、満州で終戦を迎えました。当時、咲子さんの父は、ソ連との国境近くで軍用機を飛ばすための気象庁から派遣された研究員だったため、捕虜としてシベリアへ送られてしまいました。そのため、母親がひとり必死の思いで、生後1か月の咲子さんと5歳と3歳の兄を日本に連れ帰りました。幸いにも、父も1年で日本に戻ることができ、一家は東京で暮らしますが、過酷な引き揚げの影響か、咲子さんは、言葉が遅く、思ったことを相手に伝えられない少女でした。また、楽しいと思う感情が極端に少なく、陰鬱さがつきまといます。

楽しい家族旅行のさなか、言葉に遅れのあった4歳の咲子さんが話すことを、必死に繋げ、やっと聞きとったあと、父は青ざめて言います。「この子は、うまく育てなければいけない。栄養失調の体の回復はもちろんだが、心の問題もだ…。いいようにも、悪いようにもなる…」

ある年の誕生日、1950年代としてはたいへんな贅沢だったデパートでの食事を楽しんだ帰り道、電車の中でのエピソードがあります。「チャキの食べた物、なんだった？お兄ちゃんたちは？どんな味、どんな香り、どんな色、温かい？冷たい？お母さんはどんな顔をしていた？お父さんはどんなことしゃべった？お兄ちゃんたちはなぜケンカしたの？隣のテーブルには、どんな人が座っていたの？どうして、チャキは、その隣のテーブルの人達を見ていたの？…」と、そこでの細かなひとつひとつのことを父が尋ねます。今までにない矢継ぎ早の質問に戸惑いながらも、次々と答えていくことで鮮明に記憶が呼び起され、自分の昂ぶった気持ちがきちんと整理、分析されると同時に、解放されていくという不思議な現象を感じるのです。

幼い頃から父に受けた文章指導について、咲子さんはこの作品のなかで次のように言っています。

「自己表現のうまく出来なかった私に、こうして父は、物を細かく観察すること、のちにそれを書くという手段で表現することによって、私の心をさらに開かせようとした」

「言葉の遅い私を、どうにかして回復させるべく、ひとつの手段だったにちがいない。書くことにより心を開かせ、すべてに自信をつけさせること、それが父の教育方針でもあったのだろう。私が素直に父の指導に従っていたのは、大好きな父と、優しさ、厳しさに包まれたわずかな時間を、共有できたからに他ならない」

10歳からおよそ10年間続いた文章指導の中で、表現することの素晴らしさが繰り返し語りかけられます。「読むことは築くこと, 書くことは創ること」、この言葉に、父としての咲子さんへの思い、書くことへの信念を強く感じます。

学生の皆さんにとって、グループワークの資料、レポート、実習記録や研究論文など、“書くこと”はこのうえない苦労でしょう。言いたいことはたくさんあってもうまくまとまらない、何を書けばいいかもよくわからない。そして、グループワークの仲間がどんな反応をするのか、心配しながら読み上げる。あるいは、やっとの思いで提出したものに教員がどんなコメントを返してくるのか不安に思いながら、恐る恐る教員のとなりに座る。看護学実習や研究指導の際、そんな様子の学生と向きあう時に思い出すのが、冒頭の新田次郎の言葉です。自分が文章を書くときにもよく思い出します。

書くことは、自分が描写しようとする対象と向き合うと同時に、自分と向き合うことです。物事を整理し、自分の考えを形成していく過程そのものです。創ることは苦しい。でも、その先には何かがあるのではないのでしょうか。

(いいだ ちえ)

請求記号:910.2-F68(文庫・新書コーナー)

※当館所蔵は文庫版(2011年刊)です。





# 新潟県立看護大学の学生のみなさんへ 病院図書室と患者図書室をご紹介します

新潟県立がんセンター新潟病院 図書室 有田 由美子

## はじめに

みなさんは病院に図書室があることをご存じでしょうか？

日々進歩する医学に対応する最新情報を提供するため、病院図書室は医師、看護師、薬剤師などの医療スタッフへの診療支援、研究支援、教育支援をおこなう部門として病院に設置されています。

また患者・家族のための医学情報を提供する図書室の設置は、国内ではインフォームドコンセントの概念が議論された頃から始まりました。1997年に3つの病院において最初のうぶ声があがりましたが、その内の1つは新潟県立がんセンター新潟病院にある「からだのとしよかん」です。

卒業後は医療機関で看護業務に就かれると思いますが、図書室機能は各施設により様々な状態です。当院は500床の都道府県がん診療連携拠点病院で、全国的に見ても中規模の病院図書室であり、また患者図書室を有していますので、1つの例としてご紹介させていただきます。

## 病院図書室

病院図書室は24時間利用できます。なぜなら職員は24

時間交代制で業務にあたるため、必要に応じていつでも利用できることが基本だからです。日中は司書と事務職員の2名が配置されています。資料の受入整理、利用者から依頼される文献の入手業務、そして電子ジャーナルやデータベースの管理と利用指導、『県立がんセンター新潟病院医誌』の編集事務局として編集作業などを行っています。

図書室の概要は表のとおりです。このうち、看護分野の単行書は742冊、雑誌は8誌となっています。

図書室の利用を職種別にみると、看護師は医師の次に利用が多く、特に新着雑誌の貸出数は1番です。日頃から最新情報を入手することを心がけていることがわかります。勿論、看護研究や専門看護師・認定看護師を目指す人は、図書室の利用は盛んになります。文献検索や文献入手、図書室でディスカッションをするグループが増えます。(写真1,2)

また、当院はがん看護実務者研修をおこなっていますので、県内病院から毎年数名の看護師が研修にきて、期間中は毎日利用してくれます。

新潟県には15の県立病院があり、当室はその中央図書室にもなっています。その機能は一部資料の中央保存と提供で、主に文献の提供となっており、それらはFAXやメールで依頼を受けて対応しています。

(<http://www.niigata-cc.jp/contents/facilities/chuou.html>)

## 患者図書室

当院では娯楽書の巡回図書貸出サービス「あかね文庫」を1994年から、医学書提供の「からだのとしよかん」を1997年から開始しました。どちらもボランティアの協力を得ての活動です。

医学書の提供は、自分の病気を正しく理解し、納得した治療を受けること、そして医療者とのよりよい信頼関係を築くことを目的としています。利用の際は患者図書室は特定の資料や治療法を勧めているものではなく、記載された内容は疑問への回答の一部分であること、医療者と



写真1 看護研究の検討



写真2 文献受取りに来ました

表 図書室の概要 (2013年5月現在)

図書室担当者	司書 1名、事務職員 1名
図書委員会	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務、司書 計10名
面積	168㎡
座席数	20席
パソコン	利用者用 2台 (院内LAN接続、文献検索用) 図書管理用 1台
蔵書数	
単行書	8211冊
製本雑誌	17,147冊
現行受入雑誌総数	179誌
(内訳) 洋雑誌 71誌	購入 62誌 寄贈 9誌
和雑誌 108誌	購入 82誌 寄贈 26誌
文献検索用データベース	医学中央雑誌Web版
臨床支援文献情報データベース(院内LANで使用)	メディカルオンライン、最新看護索引Web、Up To Date (Web版)、ProQuest Medical Library

の話合いの材料としてほしいという主旨の注意書を手渡しています。現在はサポートケア委員会のもと、図書室、地域連携・相談支援センター、ボランティア運営委員会と密接に連携して運営されています。

「からだのとしょかん」は外来棟2階にあり、医学関連図書と娯楽書を提供しています。資料は1,040冊あり、雑誌は3誌購入しています。1日の平均では、入室者は23人、医学系図書の貸出は3冊です。

外来待ち時間に読書をしたり、医師にうながされて病気の解説書やパンフレットを求めにきたり、治療や手術の選択のための情報入手、退院後の食事のレシピや、化学療法時の副作用に対応した料理本を借りて患者や家族が来室します。常駐するボランティアとの会話を楽しんだり、不安や苦しい胸の内を少しずつ話されることで入室時とは見違えて笑顔になって帰られる方も多いようです。(写真3)



写真3 からだのとしょかん入口と内部  
おわりに

病院図書室と患者図書室の1例として紹介させていただきました。どうぞ入職された病院では活発にご利用ください。私達図書室担当者はみなさんの応援団であることも忘れないでください。

(ありた ゆみこ)

## 4月から図書館長が交替しました

### 退任のご挨拶

**私**は平成25年3月末日を持って、新潟県立看護大学を退職し、図書館長の職を辞することとなりました。私は図書館長になる前に図書委員会に所属したことも無かった(?)と記憶していますので、鈴木前図書学生係長と吉原主任司書さらに図書委員の諸先生にはいろいろご指導いただき感謝しております。図書館長を勤めているいろいろな事を見聞きした経験や、鈴木前係長と吉原主任司書との毎週の打ち合わせから今後の本学図書館の問題点(経費がかかると思われる点も多いのですが)を列記してみます。

I. 施設の面での課題では①閲覧時間の延長(日曜の大学開放なども絡む問題ですが)、②グループ討論が可能なスペースの設置(気兼ねなく討論できる空間)、③PCが利用できるスペースの増設(自習室が人気のように、理想は個室的な空間)、④以上を含めた、総合的に広いスペースの実現(書庫もいづれ満杯になる)、使いやすい空間などです。またII. 収容書籍の課題では、①電子書籍の導入を増加する(厳選する必要がありますが、こ

### 前図書館長 中野 正春

れからの時代では必須でしょう)、②学生のニーズに合わせた書籍(リクエスト図書として希望は聞いていますが)の検討などでしょう。そして、III. 学生に図書館の利用を図るという点では①レポートはインターネットをなるべく使用しないように指導する(なかなか難しいでしょうが)、②学生に上手な図書の利用の仕方を教える(調べる項目をそのまま検索してもインターネットのようにヒットすることは無いことが学生はわからない。その項目がどの分野に含まれるかを先ず調べ、索引などを利用することを教える)などでしょう。

私が図書館長を引き継いだのも、退職した後に新図書館長となるのも関谷伸一教授ということですので心得ていられると思いますが、以上の点をよろしく願いいたします。

(なかの まさはる)



新図書館長は、関谷伸一教授(形態機能学)です。新任のご挨拶はp.6をご覧ください。

## 相互貸借での文献複写物の支払方法が変わりました

平成25年4月より、学生が相互貸借(=学外から文献複写物等を取り寄せる)で料金を支払う方法が変わりました。

- ◆ 支払方法 図書館カウンターで現金で支払う。  
(釣銭のないようご注意ください。領収証を発行します。)
- ◆ 受付時間 閉館時刻の15分前まで  
(月～金:午後8時15分まで、土:午後4時15分まで)

## 寄贈図書案内 平成24年12月～平成25年5月受入

下記の著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略・受入日順)

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学外	花ヶ前盛明	新潟県謎解き散歩 新人物文庫 186	2011	214.1-H27
		五智歴史散歩 第2版 観光ガイドブック	2012	291.4-G54
		越後上杉一族	2005	288.3-H27
		上杉謙信 新装版	2007	289.1-H27
		上杉謙信 新潟県人物小伝	2010	289.1-H27
		直江兼続 新潟県人物小伝	2008	289.1-H27
		直江兼続 史跡探訪	2009	289.1-H27
	磯野清	自然災害とストレスマネジメント それでも僕らは歩み出す	2012	369.31-I85
	鈴木邦枝	犬が好き人が好き トリマーだからわかる犬の気持ち	2008	645.6-Su96
山下達男	病原体と感染症 各論編 講義シリーズ	2013	493.8-Y31-2	
学内	原等子准教授	老年看護学 新訂	2013	N600-I19

## 人事往来

### 新・図書委員からのご挨拶

関谷 伸一(委員長/図書館長)

活版印刷発明の父グーテンベルクもビックリするような昨今のICTの革命的進歩は、図書館のあり方まで変えようとしています。デジタルと活字、両者の“いいとこ取り”をしたいと考えています。

藤田 尚

図書委員は初めてです。よろしくお願ひします。急速に変貌している出版界の状況を、図書委員として、本学の図書システム充実に何らかの形で少しでも貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願ひします。

飯田 智恵

大学生にとって図書館は無くてはならないものです。まだ馴染みのない方にとって、図書館だよりが、本を手にとったり、図書館に足を運んでみるきっかけのひとつになれば嬉しいです。

山田 真衣

図書館は知識の宝庫です。委員会の一員として、みなさんの「知りたい」「学びたい」を応援できるような選書に携わってゆきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 新採用図書館職員からのご挨拶

佐藤 晴夏嘱託司書

4月よりお世話になっております。大学図書館での勤務や看護系の資料に携わるのは初めてで不慣れな事も多く、皆さんと同じく勉強の毎日を送っております。一日も早く皆さんの力になれるよう精進したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 退職図書館職員からのご挨拶

飯塚 浩子前・嘱託司書

5年間勤務をさせていただきました。お世話になった方々、大変ありがとうございました。毎日のように図書館に通い、熱心に勉強されている学生さんの姿に、明るい未来と頼もしさを感じました。皆様のご活躍を心よりお祈りしております。

NCNL図書館だより 第33号(2013年6月発行)  
編集:新潟県立看護大学 図書委員会  
〒943-0147 上越市新南町240番地  
E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行:新潟県立看護大学図書館  
TEL:025-526-1169  
URL:http://lib.niigata-cn.ac.jp/